

2月定例県議会 閉会

増加学級に正規教員を

笹山県議団長が討論で主張



2010年3月28日
第93号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子

<連絡先>
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

2月定例県議会は18日、閉会しました。16日には日本共産党の笹山一夫・県議団長が本会議で討論に立ち、教員の定数に関する条例改正に反対を表明するとともに、農林水産常任委員会で不採択とされ

当初予算…最上小国川ダム推進、慶心大への研究支援などは問題

笹山団長は、2010年度の予算について、「商工業振興資金融資枠の拡大」「山形県雇用安心プロジェクト」「新規高卒未就職者支援」「ひとり親家庭医療費助成を父子家庭に拡充」「認可外保育施設への助成拡充」「少人数学級の拡充」「私立高校一般補助

教員定数…少人数学級の拡大は正規教員を増やし対応すべき

教員の定数条例改正には、小中学校の教員の減員が含まれています。教育現場では、期間1年の常勤講師や、1日6時

た請願3件について、「願意妥当、採択すべき」と主張しました。なお、2010年度一般会計予算は、共産党県議団も賛成し、全会一致で議決されました。

正規の教員を増やすべきであり、国に対しては人件費の国庫負担の根拠である標準法(1クラス40人)の見直しを求め、張しまし



笹山団長は、請願3件について、政府に意見書の提出を求め、内容は、品目横断的安定対

議会の構成が変わりました

最終日の18日は、副議長選挙と各委員会の選任が行われました。県の組織改編もあり、委員会所管内容も若干変更されました。4月から新しい構成となってスタートします(私の所属委員会は変更ありません)。

笹山一夫 商工観光常任委員会
渡辺ゆり子 少人数学級対策特別委員会
厚生文化労働常任委員会
景気雇用対策特別委員会

ゆり子の視点

学校現場では、昔と違って様々な職種の方が働いています。

教育相談員やスクールカウンセラー、エリアカウンセラー、そして市町村配置の非常勤職員や、一部雇用基金活用もあります。



的に多くあがっています。少子化が進み、どこでも学校統廃合や教員の減が行政の課題としてあげられていますが、少人数学級が全国に広まっている現在、いかに教育を充実させるのか、そしてそのための教員配置をどうするのか、改善するチャンスだと思います。

少人数学級を国の責任で

学校では、子どもたちをめぐる社会環境や経済情勢の変化によって、より時間をかけた対応が必要とされており、現場の先生方からは、正規教員の配置増を望む声もあがっています。



シンポジウムのパネリストをつとめるゆり子県議(右端)。右から3人目は佐藤商工労働観光部長 = 20日、山形市



明るい県政をつくる会 総会とシンポジウム開催

20日、「明るい県政をつくる会」の総会があり、これに先立ち、高橋節・副知事(写真下)による「2010年度県の主要施策について」と題した特別講演と、シンポジウム「緊急雇用対策と地域に根ざした産業振興」が開催されました。パネラーは、佐藤和志・県商工労働観光部長と私を含め5人で、行方久生・山形大学人文学部教授がコーディネーターをつとめました。

シンポでは、農業、中小企業の経営悪化の実態や、福祉労働の現場から見える矛盾など、各分野からの報告・意見が交わされました。行方教授は、「県民が県政を育てていかなければならない」と結びました。総会では、「県民参加の県政研究会」の活動をさらに充実させていくことや、体制強化めざす活動方針と新役員体制を決めました。